

講義名	基礎技能B（数的処理）			
担当教員	羽森 直子			
開講期・曜日・時限	後期 水曜日 4時限	授業形態	講義	
履修開始年次	1年生	単位数	2	備考

主題と概要				
<p>【目的】 基礎技能Bは、公務員を目指す学生を対象とする「公務員プログラム」に位置づけられる公務員試験対策科目である。 1年生対象の専修技能B（数的処理）では、「公務員試験で必要となる『基礎能力』に関し、幅広く「講義」と「演習」を盛り込み、どのような公務員試験でも必要となる「数的処理」について学ぶ。授業内では初回と比較して最終回での理解度を十分に平均点を20%アップすることを目標とする。公務員試験合格には、当授業を履修するだけでなく、自学自習が前提であることは言うまでもない。なお、本授業を履修するには事前ガイダンスへの参加とエントリーシートの提出が求められる（「履修にあたっての注意・助言他」を参照）。</p> <p>【内容】 「数的処理」を学び、社会人として必要な基礎的な数的処理能力を身につけてもらう。同時に、公務員の職種や試験制度、今後の学習方法についても学ぶ。試験期間に試験は行わず、成績は授業期間内で全て評価される。毎回出席すること。なお、小テスト(5問)を第3回、6回、9回、12回、15回に実施する。</p> <p>【意義】 ・講師との対話を通じて進められる本授業の意義は、受講生が、本学がディプロマポリシーで掲げる「論理的思考力」「情報収集力」「情報分析力」を養身に身につけることができることにある。また、公務員という明確の目標に向けて、コツコツと宿題をこなしていくことによって、「ネアカのひのびへこたれず」の精神を養うことができることにも大きな意義がある。</p>				

到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・公務員試験の一般知識分野を学ぶ上で重要となる「基礎的概念」の理解に必要となる「総合力」を養うことができるようになる。 ・公務員試験・教養科目の核となる『数的推理』『判断推理』の基礎を固めることができる。 ・毎週の宿題と講師のアドバイスを通じ、自学自習の習慣を身につけることができるようになる。 <p>なお、以上の目標に到達するため、本授業は講師と受講生のコミュニケーションを重視する。そのため、教室における対面授業で実施する。ただし、新型コロナウイルス感染症の感染拡大または濃厚接触者に指定され、一時的に通学が禁止となった学生には通学できない期間中の講義をオンデマンドにて配信する。</p>				
提出課題				
<ul style="list-style-type: none"> ・毎授業時に宿題（練習問題）を出す。 ・公務員試験勉強には日ごとの自習が求められる。宿題を通じて、自分のペースに合わせた学習習慣を身につけてもらいたい。 				

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック				
宿題提出後、授業中に講師・解説を行う。				
評価の基準				
小テスト（5回×5問=25問）〔50%〕と受講態度（宿題の提出〔15回〕等）〔50%〕の割合で評価する。				

履修にあたっての注意・助言他				
<p>本授業を履修するには、ガイダンスへの参加とエントリーシートの提出が必要である。</p> <p>【ガイダンス】 1年前期（5～6月）に目的、内容を紹介する説明会を実施するので、履修希望者は必ず参加して下さい。 エントリーシートの事前提出 公務員対策は4年間わたる長手帳の取り組みとなり、強い意志が必要となります。そこで履修希望者は、エントリーシートを提出して頂き、それが審査されて履修の可否が決定されます。エントリーシートの詳細はガイダンスで説明します。なお、本授業は50人を定員としています。</p>				

教科書				
.公務員試験 新・初級スーパー過去問ゼミ 判断推理[改訂版]	資格試験研究会 編	実務教育出版	1,540円	9784788968929
.公務員試験 新・初級スーパー過去問ゼミ 数的推理[改訂版]	資格試験研究会 編	実務教育出版	1,540円	9784788968936

プリント資料及び参考文献				
必要に応じて資料を適宜配布する。				
授業計画				

<ul style="list-style-type: none"> 1. 公務員ガイダンス・数と式の計算その1 2. 数と式の計算その2 3. 方程式・不等式 4. 割合・速さ 5. 仕事量・時計算・年齢算 6. 場合の数・確率 7. 直線図形・円・扇形 8. 集合・論理・番号 9. 対応・順序 10. 位置・勝敗 11. 数量関係からの推理 12. 平面図形 13. 立体図形 14. 資料解釈・数表 15. 資料解釈・グラフ

授業形態（アクティブ・ラーニング）				
	ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	
	ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク	
	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク	
	キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）			

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間				
<p>*予習：それぞれの回の実施内容（全体把握）を予習すること（2時間程度）。 復習：講義内で実施した範囲の問題演習を繰り返し、3回以上は解くこと（2時間程度）。</p> <p>公務員採用試験対策においては、問題演習を繰り返し解くことが重要です。自学自習をすることで、授業で学んだ知識を定着させましょう。</p>				

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連				
<p>*本授業の目標は、本学のディプロマポリシー（5項目）と以下の点で関連する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公務員採用試験に向けて、教養科目の核となる『数的推理』『判断推理』を解くことができるようになる。 ・知識を自らに転換することができる。論理的思考力を持った人材」の育成。 ・毎週の宿題と講師のアドバイスを通じて、自学自習の習慣を身につけることができるようになる。 ・「自主・自立の精神を持った人材」の育成 				
双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述				
理解度確認表・レスポンスを活用し、不明点や確認事項を学生と講師間で共有する。				

実務経験の有無及び活用				
備考				